

授業科目名	カウンセリングの基礎	単位数	2
担当教員名	・ 斎藤 やす子・石塚 勝郎 ・ 小嶋 義勝	担当形態	オムニバス
実務内容 (実務家教員の場合)	石塚 勝郎：日本教育カウンセラー協会 上級教育カウンセラー 斎藤やす子：高等学校国語科教員 同上上級教育カウンセラー 小嶋義勝：札幌大学 教授		
「学位授与の方針」との関係			
・ 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。			
・ 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。			
・ 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ			
(1) カウンセリングとは何か。原理や基礎を学び、人との出会いを大切にすることを理解する。			
(2) カウンセリングの歴史や理論を理解する。			
(3) カウンセリングの方法と技法を学び、相手に共感したり理解したりする経験を積むことを理解する。			
(4) 自己理解・他者理解によってカウンセラー（教育相談者）としての資質を高める。			
授業の概要			
カウンセリングの基本姿勢はどんな人もそのありのままの姿を受け、その多様な存在の在り方を尊重するということである。そこには「治そうとするな、わかろうとせよ。言葉じりをつかむな、感情をつかめ」というカウンセリングの基本原則がある。カウンセリングの技術はカウンセラーの人間性と無関係に考えることはできない。また、いくつかの心理テストを実施し、自己理解を行う。これによって自分自身の内面に気付いたり、対人関係の癖を知ったり、自分自身の価値観を見つめなおすことはカウンセリング技術に反映されていくうえで重要である。			
二日間を通してカウンセリングの実習を何回か繰り返し行うことは、自分なりのカウンセリング観を持つことや「傾聴」の意味を理解する上で意義がある。その過程でカウンセリングを支えているいくつかの理論に出会い、学ぶことによって知識を高めていくことが大切である。また実習を通して多くの人と関わることによって共感したり理解したりすることが「無条件で積極的な関心」の姿勢を学んでいく。			
授業計画			
第1回：カウンセリングの基礎と原理			
第2回：カウンセリングの歴史と理論			
第3回：カウンセリングの技法1 共感と受容			
第4回：カウンセリングの技法2 集団的アプローチ			
第5回：自己理解実習			
第6回：他者理解実習			
第7回：カウンセリングの技法3 傾聴訓練			
第8回：カウンセリングの技法4 個別面接の基礎基本			

第9回：カウンセリングの技法5 マイクロカウンセリングの基礎実習
第10回：カウンセリングの技法6 マイクロカウンセリングの応用実習
第11回：学校現場で使うカウンセリング実践
第12回：アサーショントレーニング
第13回：カウンセリングの動向
第14回：カウンセラーの倫理
第15回：まとめ
定期試験

スクーリングでの学修内容

カウンセリングの基本姿勢を学び、自己理解、他者理解のための実習を行いカウンセリング技法に反映させていく。実習を通して多くの人と関わり、共感や理解する体験を通してカウンセリングの基本を学ぶ。(主に第3回、第5回、第6回、第11回の内容を含む。)
「アクティブラーニングの手法も用いて実施」

教科書

川瀬 正裕・松本 真理子・川瀬 三弥子(2001)『これからの心の援助 ―役に立つカウンセリングの基礎と技法』ナカニシヤ出版

参考文献

- (1) 國分 康孝(1996)『カウンセリングの原理』誠信書房
- (2) 佐々木正美(2012)『あなたは人生に感謝できますか』
- (3) 平木典子・袈岩秀章(1997)『カウンセリングの基礎』北樹出版
- (4) 杉浦 京子(2002)『臨床心理学講義―実習を通して学ぶ―』朱鷺書房
- (5) アレン・E・アイビー, 福原 真知子(1985)『マイクロカウンセリング』川島書店
- (6) 佐治 守夫・飯長 喜一郎 編(2014)『新版 ロジャーズ クライエント中心療法 3刷』有斐閣
- (7) 河合 隼雄, 鷲田 清一(2010)『臨床とことば』朝日文庫

学生に対する評価

スクーリング評価(25%)、レポート評価(25%)、科目修得試験(50%)を総合して評価する。